

JOMF 派遣医師便り (2013. 6)

◆ジャカルタ◆ 乳児の呼び寄せ

JJC 医療相談室
原 稔

「ジャカルタに3ヶ月の乳児を呼び寄せることはリスクを伴いますか？」という質問。一言で返答するのは難しいですね。

お母さん方がよく気にされるのが予防接種。日本脳炎を除き、一通りの予防接種はジャカルタで可能です。日本ほど供給が安定していませんので、受診前に在庫の確認をお勧めします。これは他の薬剤に関して言えることです。

夜中、突然の発熱や痙攣も心配ですね。そして怪我也。24時間開いている医療機関があります。日本とはシステムが違うので戸惑いますが、診てもらえます。大きな違いは、先ず金を払わないと何もしてくれません。クレジットカードでも構いません。この時、保険に加入しておくことは重要です。

医者レベルを皆さん気にされます。非常に優秀な医者もいれば、正直、首を傾げたくなる医者もいます。どの病院が、と言うのではなく、そのときに巡り会う相手次第としか言いようがありません。これは一部、日本でも同じだと思います。

また、多くの場合、夜間外来で日本語対応は困難でしょうが、何とかあります。携帯電話やiPadの類は大きな武器になります。この時、専門用語は必要ありません。

Deng熱やアメーバ赤痢、腸チフス。日本ではあまり気にする必要のない病気ですね。蚊対策や食生活に気を使うことで、感染機会を減らすことができます。運悪く罹ってしまったときは、きちんと治療するのみです。日本人の生活環境であれば、ほとんどの場合、治ります。世界で多くの子供が亡くなっていますが、これは、劣悪な生活環境でまともな医療が受けられないことが大きな要因です。

生活環境の悪さも影響して、インドネシアでは結核が大問題になっています。自分たちだけでなく、お手伝いさんや運転手の健康管理にも気を使う必要があります。

ジャカルタの交通渋滞は想像を絶します。おまけに非常にわかりにくい地理。急病時における最大の危険因子は交通渋滞だと思っています。

医療だけの問題に限らず、考えだせばジャカルタで生活するリスクはいくらでも出て来ます。それをリスクととらえるかチャンスととらえるかで、景色が変わるのではないのでしょうか。